

## 音環境の測定のレポートについて

1回目のレポートとしては、全体的に良いできだったように思います。ただし、ばらつきが大きいことや考察部分まで手が回っていない人がいるように思いました。下記に、気がついたことをまとめておきます。

- 1) 概略図でも良いので、測定場所を示す図を入れておきましょう。中には、「大学のー」として書いていない人もいました。大学は、たくさんあります。できるだけ、測定場所が特定できるように心がけましょう。追試が可能なように。
- 2) どのような機器を使ったのかを明記しましょう。騒音計と言ってもいろいろとあります。特定できるように、できるだけ型番まで書いておきましょう。
- 3) 気象データを書き入れている人は、それを自分で測定したのであれば、問題はありませんが、そうでない場合は、その旨を明記しましょう。また、「騒音の基準値」などは、だれが決めた基準なのか明記しましょう。自分で決めたのですか？その他にも、各種の出典を明示していない箇所がたくさんありました。きちんと、明示しましょう。
- 4) ページ番号を忘れずに。
- 5) 参考文献を挙げる際には、最低限、編著者名、タイトル（書名、論文名など）、発行所（論文掲載誌名）、発行年月（日）、参考にした場所のページ数を書き込みましょう。
- 6) 変換ミスがないように、提出の前には、レポートをできるかぎり読み返しましょう。
- 7) 他人（読み手）にわかりやすいように説明しましょう。表や図の見方の説明も書き込みましょう。強調するところは、**ゴシック体**で、それ以外は明朝体で。
- 8) 図表のタイトルを忘れずに。図のタイトルは図の下に、表のタイトルは表の上に。
- 9) 考察のところまでは、「ーです。」ではなく、「ーである。」などの言い方でそろえましょう。
- 10) 感想も書いておいてください。
- 11) 道路騒音を道路からの距離を変えて測定した班では、それらの違いはありましたか。あったのであれば、どのくらいありましたか？これまでの知識では、どう解釈すればよいですか？
- 12) 室内の騒音では、配付資料 p. 19 の上半分のグラフなどと比べて、どのような違いがありましたか？
- 13) 今回は、台風の影響が大きかったようですが、それはそれとして、測定結果は、一応、何らかの騒音の基準に照らし合わせて、比較し、判断してみましょう。
- 14) NC 曲線を描けば、ある一つの NC 値を求めることができます。